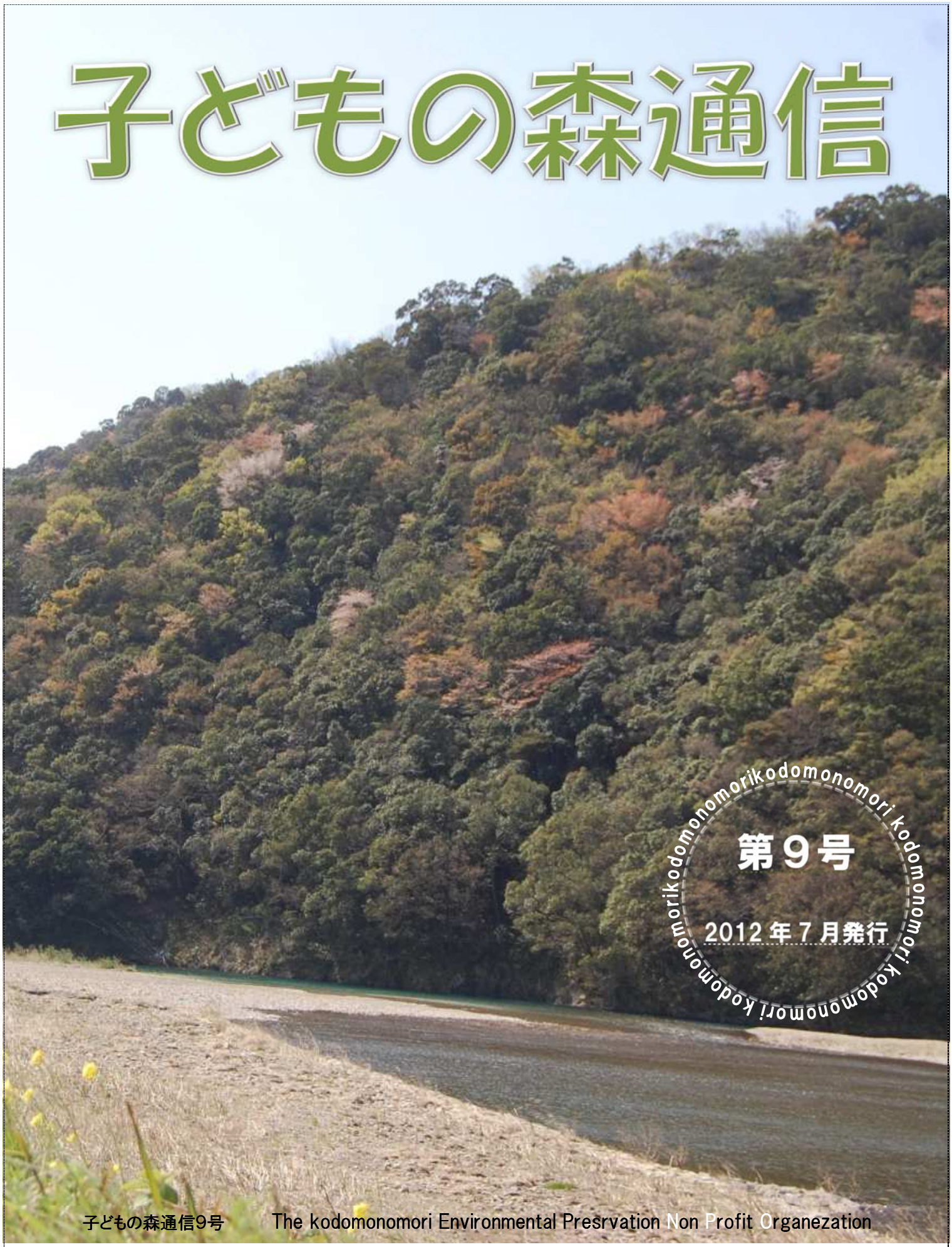
子どもの森通信



kodomonomorikodomonomorikodomonomori kodomonomori kodomonomori kodomonomori

第９号

2012年７月発行

子どもの森通信9号　　The kodomonomori Environmental Presrvation Non Profit Organezation

四季をまるごと体験 eco スクール …２～３
環境プログラム ……４～５
協働商談会 ……６～７
豊かな森づくり活動 ……８～９
森の学舎・topics ……10～11
２４年度活動予定 ……12

問題があるよ
?をめくってね!

eco
スクール
KOHARUWAKA YAYOKO MADOKA

みんなNO
しぜん

徳人・父
祐輔
N.R YOUSUKE
直生

イチゴ酵母

石臼で挽いた小麦

四季をまるごと体験ecoスクール 2011

6月25日	開校式・ネイチャーゲーム・スクール旗づくり
7月23日	竹イカダ作り・川遊び・川の生き物観察
8月21日	竹イカダで河川清掃・ネイチャークラフト
10月 8日	海沖で海水汲み・塩作り
10月22日	畑づくり（開墾）・地区の方の畑で野菜収穫・野外炊飯
11月19日	麦の種撒き・野外炊飯
1月14日	イチゴ狩り(松田農園さん)・イチゴで酵母づくり・石臼で小麦挽き
1月28日	酪農体験（矢北さんちの牧場）・石臼で小麦挽き
2月18日	パン焼き・文集づくり・閉校式

私たちの住んでいる地域の環境は、昭和40年代から激的な変化が起こっています。山は切り開かれ宅地造成が進んで、子どもたちのすぐ近くの遊び場であった里山がなくなりました。水遊びができた川や海は遊泳ができないほど汚れてしまいました。そのような自然環境の背景から、地域の小学生とその保護者に、四季を通した自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し、将来の自然環境の守り手に育ってもらえるような環境学習をスクール形式で開催しました。

前年に、準備活動として食と環境の関係を考えるワークショップ型協働モデル事業（協働モデル事業）を行いました。そこで培ったノウハウを活かして、宮崎県教育委員会・延岡市教育委員会・日向市教育委員会の後援と、セブン-イレブン記念財団の助成を受けて、屋外で自然に触れ汗を流すプログラムと親子で一緒に活動することにこだわった「四季をまるごと体験ｅｃｏスクール」を実施することができました。

この体験を通して、環境問題を考えることが親子の共通の話題となることを期待し、これから自分にできるｅｃｏな活動を見つけ取り組んでいって欲しいと願っています。

子どもの森理事長　横山　謙一

環境プログラム

これからの時代を担う子どもたちに、良質な自然環境を残すためには、体験型の環境教育は、重要なかぎとなるはずです。森の中等での自然体験活動にこだわり、楽しみながら遊びながら、結果よりプロセスを重視して、環境について考えてもらう工夫をした催しを開催しています。

2011年7月31日
川をたのしく親しもう

●川をテーマにした体験型環境学習

この活動は、ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学び、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学ぶ活動です。

オリエンテーションで、今回の目的と子どもの森スタッフとフェニックス宮崎ネイチャーゲームの会の紹介、そして記念撮影後に、川でのネイチャーゲームを五十鈴川で行ないました。また、川の生き物の大切さ、きれいな水には森林が必要であること等の話もありましたが、小さい子供たちには、ちょっと難しかったなぁと思います。

以下の川あそび（ネイチャーゲーム）を通して自然に触れ親しみました。

①ジグソーストーン：普段気にとめない小石を観察し集めて、カニ・エビ・魚などを作ります。
②音巡り：川の中でしか聞くことができない音を聞きます。
③笹舟流し：川の流れを感じます。
④宝さがし（生き物探し）：川に住んでいる身近な生き物を見つけ名前を確認します。最後に生き物は川に帰します。
⑤アメンボの旅：両手両足をアメンボの様に広げ体の力を抜くことで体が水に浮くことを知ります。

川遊びが終ったら、参加者全員で昼食のそうめん流しの準備をしました。釜戸でそうめんを湯で、竹のお椀を作り、野菜を天ぷらにしました。

2011年12月4日
森で過ごそう！森に学ぼう！

●森をテーマにした体験型環境学習

この体験型環境学習は、樹木の二酸化炭素吸収量学習、ドングリ苗木のポットづくり、ドングリを使った工作を通して、自然の豊かさを楽しみ自然の大切さを学びます。

参加者が３班に分かれて、森の学舎グランドにあるセンダン、イヌマキ、サクラ、ヤマモモの木の高さを樹高測定器と巻尺を使って計測してから、樹高が３m以上の木は胸の高さで、樹高が３m未満の木は根元で幹の外周を測りました。その後、教室の戻り、班ごとに計測した木の年間の二酸化炭素吸収量を計算しました。１本の木の二酸化炭素吸収量と人間一人の呼吸で吐き出す二酸化炭素吸収量と人間一人の呼吸で吐き出す二酸化炭素の量や家庭で使う電気量から発生する二酸化炭素の量との比較をして、樹木が二酸化炭素を吸収してくれる大事な存在であることを学びました。

ドングリ苗木作りでは、竹のポットに、ボラ土と腐葉土を入れて、ナラカシワ・マテバシイ・イチイガシ・クヌギのドングリを植えました。ドングリは、参加者が自宅で苗木に育て、３年後に山へ戻すことになっています。

昼食は、皆であぶり焼きソーセージ作り・釜戸で炊飯に挑戦しました。午後からは、いろんな自然の素材を使って、ネイチャークラフトを楽しみました。

2012年3月25日

植樹＆春をたのしもう

●春をテーマにした体験型環境学習

自然環境の大切さと大事さを見つめてもらうために、森の学舎にて植樹と山菜収穫で、春の自然を楽しみました。今回は、内容に竹林の整備もしました。やや風がありましたが、晴天で暖かい一日で、参加者・スタッフ共に春の自然が堪能できました。今回の活動は、木を植えることと山菜を収穫して食べることを通して、自然の大切さと大事さを考えてもらうことです。開会後、参加者全員で記念撮影、準備体操をして、最初の活動である竹伐採跡地と川岸への補植樹にとりかかりました。森林環境税から提供されたヤマザクラ・スダジイ・ツブラジイの苗木計60本と、個人から提供されたイロハモミジ苗木
10本、以前の環境学習でドングリから育てたクヌギ苗木を植えて行きました。補植樹が終わった後、山菜収穫について説明をしてから、図鑑や道具を持って参加者各自が山菜を収穫していきます。図鑑でも不明な物はスタッフで確認していきます。収穫した山菜は、森の学舎に用意した山菜の写真と名前をつけたプレートに並べて行き、それぞれの山菜の名前を学習しました。そして、山菜料理で昼食となります。釜戸で炊飯して、山菜の天ぷらやあえ物、炒めものを参加者で手分けして調理しました。また、子供たちは竹のお椀も作りました。閉会後に、シイタケ種駒打ち体験をしました。コマ打ちの仕方を説明してから、ドリルを使ってコナラ原木にコマ用穴を開け、シイタケ種駒を木槌で打ち込んでシイタケ原木を作っていきました。

寄稿

昔、子供たちは河童だった ～ ネイチャーゲームで、地球と遊ぼう、自然と話そう ～

フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会　運営委員長　古田栄子（社団法人日本ネイチャーゲーム協会公認インストラクター）

ダイナミックな「川遊び」は、四肢を先の先まで使って流れに遊び、持てる感覚をフルに使って、水の流れや音や冷たさを感じ、「命」そのものである魚と戯れる遊びです。川遊びは、「生きている」実感を味わえ、正に、子どもにとって「生きる」こと！そのものではないかと思っています。一昔前までは、夏になると、日本中、川という川、ほとんどの子供たちが、そんなダイナミックな川遊びをしているのが普通の光景でした。子どものほとんどは“河童”でした。小さい子は大きい子を見て泳ぎを覚え、川向こうに勇気を振り絞って泳ぎ着いて自信を持ち、溺れかかって大きい子に助けられた小さな子は、大きくなって、今度は溺れかけた小さな子は勇気を振り絞って引っ張り上げました。キラキラ泳ぐ魚や透きとおるエビ、川面をきって飛ぶカワセミの色を見て、なんて綺麗なのだろうと思いました。それらは、子供心に自然観や条理や美意識を育みました。思えば、今、叫ばれている持続可能な社会を創るために必要な自然観の基盤になるようなものを“川遊び”が育んでくれたような気がします。しかし、今では、どうでしょう。河川の汚れや河畔林の減少、コンクリート化による岸辺の変化などの影響もありますが、川の国、日本！と言っても過言ではなかった水辺環境の夏の川に子供たちの泳ぐ姿をあまり見かけなくなってきました。寂しい限りです。あの、ワクワクする川遊びを何とかして子供たちに体験させたい！あの面白さを忘れてしまった大人達にも思い起こさせたい！そんな思いで、会としても、ＮＰＯ法人子どもの森主催事業「川をたのしく親しもう！」を全面的に応援する協働活動として、講師をつとめました。

子どもの森フィールドの「森の学舎」そばを流れる五十鈴川は、子どもの頃に遊んだ古里の川そのままのような水辺空間を今も残しています。川面にはハグロトンボが舞い、川原は川海苔の生臭い懐かしい匂いがします。川岸には稚魚が群れ泳ぎ、石をめくれば川虫がゾロゾロ慌てて這い回ります。正に生きている川！です。

初めての下見で、期待通り、流れにキラキラ泳ぐオイカワや鮎、そして、何と言っても、此処での主役「川底の大石に潜む黒々とした大きなテナガエビ」と対面しました。箱メガネでとらえて網に誘い込むまでの何とも言えない緊張感。上手い具合に網に飛び込んだ瞬間の興奮は、ワクワクした子供心を呼び戻し子どもの頃が蘇った瞬間でした。きっと、みな、「テナガエビすくい」に夢中になること間違いなし！そう確信したのでした。そして、川遊びの中に、感覚を広げるネイチャーゲームを取り入れることによって、水辺から水の中へと意識していくプログラムで、楽しみながら川を丸ごと体感し、川遊びの楽しさと水辺の自然を理解してもらうことにしました。

水辺にあふれる様々な音を敏感に感じ取る＜音いくつ＞や流れの不思議な音を聞く＜川巡り音巡り＞、そして、川原の石ころも意識さえすれば、様々な色形があり流れの変化や川相をも想像できる＜ジグソーストーン＞など、水辺の自然を五感でとらえてもらいました。水辺の音や流れや泳ぐモノに敏感になったところで、主役のテナガエビから川虫まで、いろいろな魚たちを追いかけました。子どもも大人も一緒になって水辺の自然を感じて分かちあい、子どもから大人まで夢中になって魚と遊びました。テナガエビを主役にして組み立てたプログラムの締めくくりは、水の流れに身を任せて流れていく自称「アメンボの旅」。大の字になって脱力し、川面を背にしてゆっくり身を任せていれば、しぜんに体が浮いてプカプカ流れていきます。これは、何とも気持ちのいいものです。子ども達は何度も繰り返して流れていってはスタッフに拾ってもらい・・を繰り返していました。川を丸ごと体感した子ども達は、その心地よさとワクワクする魚たちとの駆け引きとを体中で感じ心に刻んだことでしょう。そして、ずっと、この川が変わらずにありますように・・と感じたに違いありません。昔、私たちが子どもの頃、そうだったように・・。

今年も、やがて、入道雲わく夏がやって来ます。そこ此処の川面に、子供たちの歓声があふれますように・・。

協働創出市 2011

平成２４年２月８日（水曜日）１８：３０～２１：３０（開場１７：３０）
会場：クリエイティブセンター門川　多目的ホール
主催：特定非営利活動法人子どもの森・宮崎県（生活・協働・男女参画課）

県北のＮＰＯ・ボランティア団体・企業・行政が一堂につどい自分たちの想いをかたちにする協働商談会を開催しました。

◆目　的

出会い・交流・情報交換、新たな発見の場として、ＮＰＯ・ボランティア団体や企業・行政など多様な主体が認識を持ち、志をひとつにして、協働を推進するための出会いの場で、あたかも商談をするかのように協働の相手先を探すことにより、新しい協働事業を創出するものです。

会場設営

～ 会場全体の様子 ～

協働の事例発表

昨年度の協働創出市に参加した門川町総務企画課の川越さんより協働の事例発表がありました。
（事例１）事業名：門川町暮らしの便利帳発行事業、協働の相手：株式会社サイネックス、協働の形態：事業協力・協定
（事例２）事業名：門川町まちづくりプレーヤー事業、協働の相手：町内を活動拠点とするグループ、協働の形態：補助

■２１団体（NPO・ボランティア団体１２、行政４、企業２、労働団体１、その他２）５１人が参加

特定非営利活動法人子どもの森	協働創出市を主催し、宮崎県（生活・協働・男女参画課）と協働して事業を進めています。
宮崎県（生活・協働・男女参画課）	協働創出市を委託し、子どもの森と協働して事業を進めています。

■協働創出市に参加した団体の一覧です。　　敬称略

連合宮崎	シニアコミュニティ宮崎
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会（地域・ボランティア課）	延岡市（市民協働・男女参画課）
NPO 法人福祉支援協会ライフサークル	株式会社ケーブルメディアワイワイ
日向市（市民協働課）	九州労働金庫宮崎本部
特定非営利活動法人日向渚を守る会	イオン九州株式会社イオン日向店
延岡ひかりの会	特定非営利活動法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
門川町（総務企画課）	宮崎ダンボールコンポストネットワーク門川支部
特定非営利活動法人ひめしゃら倶楽部	ボーイスカウト宮崎連盟北部地区協議会
宮崎県ネイチャーゲーム協会	宮崎県難病相談支援センター
宮崎わんこの会	

子どもの森と宮崎県の協働について

それぞれの団体単独では、その想いを形にすることの難しさを、８年間の子どもの森の活動を通して感じていました。一方、企業や他の団体と協働し活動した時には、容易に形になっていく実感がありました。

同じ想いを持つもの同士が一緒になって活動や事業を進めて行くことが、地域の問題解決にとって有効な手段であり、宮崎県の委託事業である「協働商談会開催事業」が、子どもの森の感じている協働を地域に広げることができる事業であることから、子どもの森で宮崎県生活・協働・男女参画課と協働して「協働商談会」を開催することにしました。 http://kyoudou.info/

商談会の様子

協働とは・・・

ＮＰＯや行政・民間企業がそれぞれの主体性、自発性のもとにお互いの立場や特性を認識・尊重しながら、共通の目的を達成するために協力・強調すること。

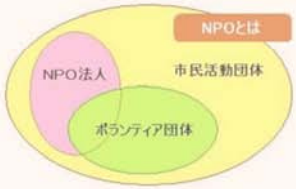
ボランティア、民間企業そして・・・新しい公共の担い手ＮＰＯ

ＮＰＯ（NonProfitOrganaization）とは、民間の非営利組織です。

ＮＰＯの定義は統一されていませんが、県では、法人格を持つ特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）及び法人格を持たないボランティア団体その他の市民活動団体等としています。ＮＰＯは、地域の課題を解決するために社会的な使命感を持ち、新たな公共の担い手として期待されています。

※「非営利」とは、収益活動を行ってはいけない（儲けてはいけない）ということではなく、収益を団体の構成員に分配をしてはいけないということです。

※自治会、自治公民会、婦人会などの地縁団体も、公益の活動を行う場合はＮＰＯに含まれます。



あなたにもできる！協働

★農家が「食」の安全を提案
★自動車メーカーが交通安全啓発
★薬局が介護予防も
★書籍店で読み聞かせ
★宅配のついでに高齢者の見守り
★ガーデニングのついでに道路もきれいに
★居酒屋が町の集会場
★犬の散歩で見守り活動

その他にもアイデアしだいで協働の輪は広がります！

協働Ｑ＆Ａ

・協働すると、どんな良いことがありますか？

厳しい社会情勢が続く昨今、ＮＰＯや行政、民間企業の力だけではどうにもなりません。みんなで汗や知恵を出し合うことで、想いをかたちにすることができ明るい未来に近づくことができます。

・協働するにはどうしたら良いですか？

協働創出市で、地域社会をよくしたい想いを話し同じ想いを持っている相手を見つけましょう。きっと協働するパートナーがみつかります。

（「宮崎県とコラボしよ！」リーフレットより）

コラボシスターズ（協働イメージキャラクター）

コラボ鏡ちゃん
協働で必要な機動性をイメージしています。

コラボ玉ちゃん
協働で必要な柔軟性をイメージしています。

コラボ剣ちゃん
協働で必要な先駆性をイメージしています。

子どもの森が取り組む豊かな森づくり

■実施日 2011 年度

6 月	4 日
7 月	9 日
7 月	11 日
10 月	9 日
11 月	12 日
11 月	13 日
3 月	3 日
3 月	25 日

平成24年3月25日は「春をたのしもう」と同時開催により52人の参加があり、平成21年度に竹を伐採し広葉樹の植樹をした空間に広葉樹を捕植樹しました。企業（株式会社ローソン社員、近隣のローソン店舗の店長と従業員の方々）の参加が7人ありました。

・助成等：国土緑化推進機構特定公募事業（ローソン緑の募金事業）

妖精の森

竹林となってしまった森林の一部を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の森に再生しています。

手入れがされず放置されている竹林を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、平成21年度から継続して竹の伐採を続けています。

伐採した竹林の面積は約0.3haで、伐採竹は、粉砕機でチップにして堆肥作りを兼ねて森の学舎グランドの一部に散布しました。また、伐採した竹で棚を作り、棚に倒竹や竹笹部分等を積んで行っています。その他に、四季をまるごと体験ｅｃｏスクールでの竹イカダにも伐採した竹を活用しました。

■下草刈り　２０１１年６月18日

■２０１２年５月８日

炭焼き窯が届きました。この炭焼き釜は、緑の募金特定公募事業からの助成金を受けて導入しました。

24年度の活動、竹炭作業に利用していきます。

GOCANの森での森づくりも6年目となりました。今回も毎年恒例の門川高校生と一緒に下草刈をおこないました。天気は雨で、3年連続で雨の中での下草刈となりました。しかも、今までで一番激しい雨となりました。そんな天気でしたが、高校生が5人と先生の6人が門川高校から参加してくれました。子どもの森からの参加者は3人で、計9人での下草刈です

朝8時に門川高校に参加する高校生が集合した時には、既に雨が大降りでした。やや不安を抱えてマイクロバスでGOCANの森に出発しました。移動時間を利用して、今までの森の取り組みと今日の作業説明・注意点などのオリエンテーションを実施しました。森に着いて、テント設営、道具の準備、体操、作業道の確認をおこなってから、下草刈の作業にはいりました。

植樹した苗木は4年が経過して、ケヤキとイロハモミジの樹高も2mから3mとなっています。悪天候とボランティア人数不足であったので、樹木の周りをつぼ刈りにしました。激しい雨の中、高校生は汗だくで雨にぬれながら、森づくりボランティアに励んでくれました。約1時間の下草刈で予定していた作業が終了したため、森の学舎へ移動。森の学舎では、お楽しみ昼食である素麺流しをしました。その準備として、竹で素麺のお椀を作り、釜戸で素麺をゆで、野菜の天ぷらを作りました。解散時間の14時になり、門川高校生は再びマイクロバスで帰路につきました。

五感 GOCANの森

門川高等学校演習林を五感で森林自然を感じることが出来るように高校生と一緒に取り組んでいます。

【森づくり活動】
延べ実施日数９日間
延べ参加人数１５５人

森づくりボランティアに参加いただいた皆様ありがとうございました。

森林環境セミナー

～森の達人になろう～

環境問題への取組みのひとつである森づくり活動に継続して参加するボランティアと、森づくり活動を自らコーディネートするリーダー的ボランティアを育成するセミナーで、今回が４年目（４度目）の開催となります。

◆森づくりのための森林生態学

高木先生による森林生態学は、森林の種類、樹木の特徴、森林の種類、森林の持つ多様性など多岐にわたる講話でした。また、森林を育てる技術、遺伝的攪乱が起こらないような地域にある樹木で、適地適木とした施業体系の森づくりの重要性を学びました。森林のもつ多面的機能を同時に発揮できるような森づくりに取り組んでいきたと思いました。

◆森づくりボランティアの紹介

県内の森づくり団体が、どのような森づくりをやっているのか、また森林などを活用して、どのような環境学習をしているかを説明しました。

◆県北の森林について樹木・植物観察

森の学舎周辺を散策して、講師の成迫先生から植物の名前や特徴など説明がありました。春の七草を実際に探していきました。

◆安全管理

設備のメンテナンス・不適切な作業環境・疲労や加齢等の人的要因・作業の管理の何れかに欠陥がある場合に林業労働災害の発生がおきること、作業時の意識改革や作業前ミーティングの必要性、事故を未然に防ぐ対策、事故発生時の対応を前もって準備しておくこと等を学習しました。そして、災害の事例について、講師の岩田さんの周辺で起きた災害事例の説明もありました。林業労働災害については、ボランティアにも同じようにあてはまると思います。

◆チェーンソーなどの山林作業機械の使用法

倒木作業での受け口と追い口についての説明がありました。チェーンソーの基本的な使い方を学び、安全管理の講習で学んだ知識を確認しながら、木に見立てた杉の丸太を実際に切っていきました。

◆森林資源の活用（きのこ栽培）

森づくり活動をして、作業の安全上でどうしても下木（広葉樹）を倒さなければならない時があります。倒した下木も有効に活用しなければなりません。薪にしたり炭にしたり、チップ化して堆肥等に利用したりします。そのひとつとして、キノコの原木への使用もあります。昨今の森づくりボランティアでは、活動の楽しみとしてのキノコ栽培も盛んに行われています。

キノコは菌種であり、分解者として菌種が自然界に必要不可欠な存在であること、キノコが育つ自然環境とキノコの生育について学んだ後、キノコの菌コマ打ちを体験しました。コナラの原木にシイタケ菌コマを接種しました。

１日目

３月１７日		
9:00	開講式、オリエンテーション	事務局
9:20	森づくりのための森林生態学	宮崎大学農学部准教授 髙木　正博　氏
11:30	森づくりボランティアの紹介	子どもの森　理事長 横山　謙一
13:00	自然保護と樹木・植物観察	宮崎県環境保全アドバイザー 県北植物愛好会　成迫平五郎　氏

成迫平五郎先生の植物観察

髙木正博先生の講義

２日目

３月18日		
9:00	安全管理	安全技術指導員 岩田　幸生　氏
10:40	チェーンソーなどの山林作業機械の使用法	林業従事者 松本　哲也　氏
13:30	森林資源活用 椎茸コマ打ち作業	子どもの森理事長 横山　謙一

チェーンソー実習

しいたけコマ打ち作業

もりのまなびや

森の学舎

旧西門川小学校松瀬分校を活用している森の学舎。環境プログラムの開催と環境文庫の常設をしています。また、団体への施設開放、自然体験活動の受け入れもおこなっています。
http://www.kodomonomori.info

学舎の開放

子ども土曜教室「うきうき・おもしろ探検隊」

2011年9月17日

日向市の中央公民館が毎月開催している土曜教室の富高小学校と塩見小学校の4年生から6年生の20人が、環境学習とあぶり焼きソーセージ作りを体験しました。子どもの森は、スタッフ4人で、サポートしました。

人間が生活することで排出しているCO2（二酸化炭素量）の量と、樹木が吸収しているCO2を知ることで、樹木の大切さと人間生活で無駄な電気・ガス・水などのエネルギー消費を少なくすることの必要性を学習しました。子どもたちは、森の学舎グランドで樹木の高さと幹回りを測り、教室に戻ってきて樹木のCO2と人間生活で排出されるCO2を吸収するために木が何本必要なのかを計算しました。

お昼は、ソーセージ生地づくり・釜戸ご飯炊き・あぶり焼き火熾しの3班に分かれて準備をしました。

北川教育課からの視察

2011年10月24日

廃校になった学校のある旧北川町の四区長さんと延岡市教育委員会北川教育課の皆さんが、森の学舎に廃校になった学校の活用事例の視察にやってきました。旧北川町で廃校になった学校がある地域の区長さんたちは、地域で廃校をどのように使っていくかを模索しているそうです。

子どもの森での旧西門川小学校松瀬分校を使った活動の説明を通して、お金を投資してハード面で学校を違う物にせず、そのままの姿で、いつでも学校として戻せるように、廃校のソフト面での活用についてお話させていただきました。子どもの森の廃校活用が、旧北川町の区長さんたちへのヒントとなれば幸いです。

小麦について　シリーズ 1

小麦はイネ科小麦属作物の総称です。
世界中で最も広い範囲で栽培されています。
世界の小麦栽培面積は2.2億ヘクタール、全穀物栽培面積の32％を占めています。収穫量は6.3億トンです。

小麦の外観

小麦の実は楕円形で、外側を固い皮が何重にも覆っています。皮の色は黄色から褐色まであります。外皮の色が褐色系のものを赤小麦といいます。日本の小麦はこれに属します。外皮の色が黄色系のものを白小麦といい、オーストラリアなどの小麦はこちらに属します。秋に種をまいて、翌年の夏頃収穫するものを冬小麦といいます。また、春に種をまいて、秋に収穫するものを春小麦といいます。

小麦の種類

小麦は、おおまかには普通小麦（パン用）デュラム小麦（パスタ用）の2種類に分けられます。
原産地は中央アジアのコーカサス地方から西アジアのイラン周辺と考えられています。
普通小麦の栽培はメソポタミア地方で始まり、紀元前3000年頃ヨーロッパやアフリカに伝わりました。
日本では、小麦よりも粒のまま食べる大麦の方が米と共に栽培され食べられてきました。

ecoスクールで栽培した小麦
2012年4月撮影

東臼杵郡公民館連合会実践研究セミナーでの講演

２０１１年11月28日

東臼杵郡内の門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村の４町村で構成されている公民館連合会の実践研究セミナーが開催されました。この実践研究セミナーで、横山理事長が、演題『環境保全活動を通して「こどもの成長と公民館の役割」』を1時間30分の講演をしました。

子どもの健全な成長には、自然環境に触れることが大事で、徳観・正義感の度合いは、「自然体験」が豊富な子どもほど、身についている。小学生の時期の子どもは、親から離れて友だちと遊ぶ集団を形成し、活発に活動するなかで様々なことを学ぶ。

公民館でできる子どもたちへの環境学習には、電気製品に頼らない生活のあり方・フードマイレージで「地産地消」を考える・緑のカーテンづくり・ホタル等の生き物の調査と保護・自然農業の体験・昔のあそび・エコ工作等の多くのテーマがあり、地域の人材を使って、他の公民館地域や企業・ＮＰＯ・行政・学校等と協働することで実施が容易になる。

連合愛のカンパ意見交換会

２０１２年２月28日

宮崎県のＮＰＯや市民活動団体と日本労働組合総連合会（連合）の意見交換会が実施されました。

国内の各地域で社会貢献活動を展開している団体を対象に、連合が支援している「愛のカンパ」のカンパ先団体が、宮崎県は特に多く、連合本部の連帯活動局が、「愛のカンパ」のカンパ先団体と意見交換を要望して開催されました。

子どもの森、YAH!DO みやざき、チャイルドラインみやざきの３団体が連合愛のカンパの事例発表をしました。他に、連合愛のカンパ、九州労金と全労済の助成金の説明が行われました。

会場：宮崎中央公民館
参加団体：11団体

みやざき森づくりボランティア協議会加盟団体としての活動

宮崎県内の森づくり団体が集まって、情報交換や森づくりの研修・技能を学んでいます。また、一般の方への普及活動も行っています。子どもの森は、２００５年に加盟し、現在20団体が所属しています。

森づくりシンポジウム

２０１１年11月30日

東日本大震災や福島原発事故、新燃岳の噴火などの災害が相次ぐ中、緑豊かな森を育て守ることの大切さを認識するために、みやざき森づくりボランティア協議会が主催する「森づくりシンポジウム」が、宮崎県武道館で開催されました。

「神話に学ぶ災害からの復興～森の破壊神から守護神になったスサノオ～」をテーマに、大阪在住で、勤務医で小説家の石黒耀さんの講演がありました。神話の中には、自然災害を物語にして後世に語り伝えるものが多くあるとの話がありました。

石黒耀さんの講演の前には、「子どもの森」による森づくり事例発表もありました。

◆取　材・出　演◆

ＮＨＫ総合「いっちゃがゴールド」

２０１１年８月５日

８月５日の「いっちゃがゴールド」百文は一見にしかず門川町の旅に、ライブ出演しました。

海（カンムリウミスズメと乙島）と産業（アゲミとみんなと朝市）の紹介、中山神社、そして最後に「自然がだいすき」として、門川の山間部紹介として、子どもの森の環境活動の話と続きました。

６時からの放送で、２時30分からリハーサルが１時間30分あり、リハーサルで本番の見直しがされました。本番では原稿などを見れないし、ライブ放送であったのでとても緊張して、準備したコメントを忘れてしまいました。収録は、とても大変でしたが、番組が作られる一連の作業を見ることができて、とても貴重な体験となりました。

本番は、短い時間でしたが、ｅｃｏスクールの参加者二人と、森の学舎での活動等を紹介しました。

帰る間際に、Domo-kun メモ・Domo-kun シール・ななみちゃんハンドタオル・ななみちゃんペンを、お土産でいただきました。そして、放送局を出る時に、百野キャスタ他スタッフの皆さんが、車が交差点を曲がり見えなくなるまで手を振ってお見送りをしてくださいました。

◇ＭＲＴ宮崎放送
ＭＲＴラジオ「エ・コ・コロ・カフェ」収録
２０１１年12月24日

◇わいＷａｉＴＶ
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール
２０１１年６月29日

◇宮崎日々新聞社
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール
「植物や昆虫探したよ」
２０１１年６月26日付18面
植樹＆春をたのしもう
「ヨモギおいしい」親子山菜摘み味わう
２０１２年３月28日付20面

◇夕刊デイリー新聞社
森づくりシンポ育て守る大切さ
再確認（横山理事長の事例発表）
２０１１年11月４日付２面

平成23年度活動への助成・寄附等の報告

＊宮崎県森林づくり活動支援事業（宮崎県森林環境税）
妖精の森の竹伐採（竹林の整備）、高校生との五感の森下草刈り、体験型環境学習（森で過ごそう森に学ぼう）への助成、森づくりボランティア養成講座（森林環境セミナー）への一部助成

＊緑の募金特定公募事業（国土緑化推進機構緑）
妖精の森の竹伐採（竹林の整備）

＊協働商談会開催事業委託費（宮崎県生活・協働・男女参画課）
協働商談会（協働創出市２０１１）の開催に係る委託費

＊セブン-イレブンみどりの基金
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール

＊イオン黄色いレシート
イオン各店での黄色いレシートキャンペーン箱に投函されたレシート金額の１％相当額の物品が活動全般に寄贈

＊緑のｇｏｏ
パソコンや携帯から「緑のｇｏｏ」を利用することで得る収益から、子どもの森活動全般への寄附

＊Ｍエコスタイル
宮崎日日新聞社の企業広告収入により県内で活動している環境保護団体に寄附

＊個人による寄附
小森　様（宮崎市）

ありがとうございました

2012年度活動予定

月	予定/実施日	活　動　名／活動内容	場　所
4	14(土)	竹林整備／竹伐採、タケノコ除去	妖精の森
	22(日)	第１２回通常総会・「山菜を食べよう会」開催	森の学舎
5	4/29(祝) 2(水)、3(祝) 4(祝)、5(祝)	森の学舎の施設整備／下駄箱・簡易炭窯などの設置	森の学舎
	13(日)	ｅｃｏスクールの準備	森の学舎
	19(土)	竹林整備／竹伐採	妖精の森
	20(日)	椎茸栽培／ホダ木の本伏せ	森の学舎
	26(土)	ｅｃｏスクール／開校式、ネイチャーゲーム、麦刈り	森の学舎
6	9(土)	ｅｃｏスクール／麦脱穀、ｽｶｰﾙ旗作り、ダンボールコンポスト製作	森の学舎
	16(土)	育林作業/高校生の下草刈り	ＧＯＣＡＮの森
	17(日)	みやざき森づくりボランティア協議会総会	
	23(土)	ｅｃｏスクールの準備	森の学舎
7	6/30(土)1(日)	竹林整備／竹伐採、粉砕、竹炭作り	妖精の森
	1(日)	森の学舎の整備／草刈り	森の学舎
	7(土)	ｅｃｏスクール／竹イカダ作り	森の学舎
	21(土) 22(日)	竹炭作り	妖精の森
	22(日)	川をたのしく親しもうの準備	森の学舎
	29(日)	川をたのしく親しもう／ネイチャーゲーム	森の学舎、五十鈴川
8	11(土)	ｅｃｏスクール／竹イカダでの五十鈴川清掃	森の学舎、五十鈴川
	25(土) 26(日)	竹林整備／竹伐採、粉砕、竹炭作り	妖精の森
9	1(土)	ｅｃｏスクール／塩作り	日向灘、森の学舎
	8(土) 9(日)	竹林整備／伐採、粉砕、竹炭作り	妖精の森
10	13(土) 14(日)	椎茸栽培／ホダ木浸水、ホダ木お越し	森の学舎
	21(日)	竹林整備／竹伐採、粉砕、竹棚作り	妖精の森
	27(土)	エコ・スクール／麦畑作り、野菜収穫	森の学舎
11	10(土)	竹林整備／竹伐採、粉砕、竹棚作り	妖精の森
	11(日)	ｅｃｏスクールの準備	森の学舎
	17(土)	ｅｃｏスクール／麦撒き、環境学習	森の学舎
	25(日)	森で過ごそう森に学ぼうの準備	森の学舎
	28(水)	協働創出市 2012	未定
12	2(土)	森で過ごそう森に学ぼう	森の学舎
	15(土)	ｅｃｏスクール/酪農体験、バター作り	矢北牧場
2	11(祝)	黄色レシートキャンペーン／子どもの森ＰＲ活動	未定
	23(土)	ｅｃｏスクール／イチゴ酵母作り、石臼麦挽き	松田農園、森の学舎
3	2(土)	竹林整備／竹伐採、竹棚づくり、下草刈り	妖精の森
	9(土) 10(日)	ｅｃｏスクール／石窯パン焼き、文集作り、閉校式	森の学舎
	24(日)	森づくりのための森林環境等学習／植物観察、森林生態、森づくり活動の現状・必要性	森の学舎
	30(土)	植樹と春の山菜・野草を楽しむ 補植樹、山菜収穫、竹林整備	妖精の森、森の学舎

表紙樹木

ヤマザクラ

【属名】バラ科サクラ属
【樹形】落葉高木
【葉】長楕円形で先端は長く尾状に伸びている。鋸歯は腺に終わる二重鋸歯である。
【花】ヤマザクラの花はソメイヨシノよりも少し早く咲く。花と同時に葉が展開し始め、新葉の色が赤みを帯びているので、独特の風情がある。花は直径3～5cmで、総花柄は短く、2～3の無毛の花柄をだして花を咲かせる。
【分布】本州・四国・九州

平成24年4月撮影（門川町）

編集後記

自然体験活動では、いろんな喜び、出会いがあります。

一年間を通じて同じ参加者による「四季をまるごと体験ｅｃｏスクール」に昨年参加してくれた現在中学1年生のＮ君、今年度は、ボランティアスタッフとして参加してくれています。２期生のよきお兄さん、私たちにとっては、頼もしい存在でもあります。

これだから、多少の困難も乗越えて、楽しく活動できるのかと思う。出会いに感謝！

子どもの森通信　第９号
発行・編集：特定非営利活動法人子どもの森広報委員会　〒889-0624 宮崎県東臼杵郡門川町城ヶ丘 2-2
TEL/FAX：0982-95-7800　Mail:office09@kodomonomori.info　http://www.kodomonomori.info